

流行性感冒予防心得

(大正八年十月内務省衛生局)

はやりかぜは如何して伝染するか

はやりかぜは主に人から人に伝染する病気である。かぜ引いた人が咳や嚏をすると目にも見えない程微細な泡沫が三、四尺周囲に吹き飛ばされ夫れを吸い込んだ者は此病に罹る。かぜを引いて治った人も当分の間は鼻の奥や咽頭に此病毒が残って居り又健康な人の中にも鼻や咽頭に病毒を持って居ることがある。是等の人々の咳や嚏の泡沫も病人同様危険である。

罹らぬには

一、病人又は病人らしい者咳する者には近寄ってはならぬ。病中話などするのは病人の爲めでもないから見舞に行っても可成玄関ですますがよい。

二、沢山人の集って居る所に立ち入るな。

時節柄芝居、寄席、活動写真などには行かぬがよい。

急用ならざる限りは電車などに乗らず歩く方が安全である。

かぜの流行する時節に人と対談する時は用心して三四尺離れ人の咳や嚏の泡沫を吸い込まぬ様注意なさい。

三、人の集まって居る場所、電車、汽車などの内では必ず呼吸保護器(『レスピレーター』、又は『ガーズマス』、『ハンケチ』を掛け、それではなくば鼻、口を『ハンケチ』手拭などで軽く被いなさい。

『ハンケチ』も手拭もあてずに無遠慮に咳する人嚏する人から遠ざかれ。

四、塩水か微温湯にて度々含嗽せよ、含嗽薬なれば尚ほ良し、食後、寝る前には必ずうがいを忘れるな。

五、小供、老人、持病あるもの、身体の弱き者は罹り易くまた罹ると重くなるから常に便通をよくし腸胃を悪くせぬ様用心せよ。

罹ったなら

一、かぜを引いたと思つたら直に寢床に潜り込み医師を呼べ。

普通のかぜと馬鹿にして売薬療治で安心するな。外出したり、無理をすると肺炎を起し取り返しの着かぬ事になる。

二、病人の部屋は可成別にし看護人の外は其の部屋に入れてはならぬ。

看護人や家内のものでも病室に入るときは必ず呼吸保護器を掛けよ。

三、治ったと思っても医師の許しある迄は外に出るな 地震の震り返しよりも此病気の再病は怖ろしい

此外気を付くべきことは

- 一、家の内外を清潔に掃除し天気のとときは戸障子を開け放て
室の掃除は可成塵埃の立たぬ様に雑布掛けするのが一等
家の周囲？は塵埃の立たぬよう先づ水を撒いて後掃け
学校、幼稚園、寄宿舎、工場などでは殊に是等の事に気を付けよ
旅人宿、貸席などは客のない間は日中必ず部屋の障子を開けて置け
- 二、寝具寝衣などは晴天の日には必ず日に曝せ
- 三、用心に亡びなし、健康者も用心が肝心、予防注射も用心の一つ
- 四、人前で咳や嚏をする時は公德を重んじ必ず『ハンケチ』か手拭などで鼻、口、を被え
- 五、病人の咯痰、鼻汁などで汚れたものは便所に棄てるか焼くか煮るか又は薬で消毒せよ
病室内の汚たものの始末は医師に相談して遺漏ない様にせよ